

1 目 標

個に応じた指導を積極的に進め、基礎的・基本的な内容を確実に身につけさせるとともに、自ら学ぶ意欲や態度、思いや考えを伝える「思考力、判断力、表現力」等を育てる。

- ・一人一人のよさや可能性を生かし、互いに学び合い支え合える学級集団・異年齢集団を育てる。
- ・指導目標を明確にした綿密な指導計画を立て、指導方法や指導過程を工夫し授業改善に努める。
- ・児童の学力の状況を的確に把握・分析し、言語力及び表現力の育成を基盤として、学力の充実、向上を目指す取組を組織的に進め、自ら学ぶ力の育成に努める。
- ・評価の観点を明確にした適切な評価に努め、指導と評価の一体化を図る。
- ・自己評価を多く取り入れ、体験的・問題解決的な学習を充実して学習意欲を喚起する。

2 本年の重点課題

学習指導要領の趣旨を踏まえ、日々の授業を工夫・改善し、基礎学力の定着を図るとともに、思考力・判断力・表現力を伸ばしていく。

- ・自らの課題を見つけ主体的に学ぶ意欲や態度の育成を図る。(主体的に学ぶ意欲の育成)
- ・思いや考えが伝えられる「思考力、判断力、表現力」等を育てる。

(コミュニケーション能力の向上)

- ・個が生きる体験的・問題解決的な学習の充実に努め、学ぶことの楽しさや成就感を体得させる。

(自尊感情・自己有用感の体得)

- ・漢字・算数大会・学力診断テスト等で、学力に課題のある児童個々の原因を明確にし、基礎学力の定着・向上を図る。そのため、個に応じたきめ細かな指導と学力向上に努める。

(基礎学力の定着と向上)

3 実践計画

(1) 日々の授業の工夫・改善に向けての実践研究

- ・基礎学力の定着や思考力・判断力・表現力を伸ばすため、授業改善についての実践研究を進めていく。

(2) チャレンジタイムの取組

- ・チャレンジタイム(創意ある教育活動の時間。1年生…年 20 時間、2～6年生…年 10 時間)

【内 容】

- ・国語・算数を中心とした基礎・基本の定着を図る。
- ・個に応じた指導の手立てを講じる。

(3) 朝学習と学習タイムの取組

- ・朝学習は読書とする。
- ・毎日5校時が始まる前の15分間を活用して、国語、算数の基礎・基本及び思考力の向上に関わる内容の取組を進める。
- ・計画的な取組を通して確実に力をつけていく。

(4) 漢字大会、算数大会、国語大会の実施

- ・問題は、各学年で検討し、各学期末に実施する。
- ・大会に向けての取組期間を10日間とし、事前に宿題等で繰り返し練習をする。
- ・大会は努力達成型であり、その後の学習意欲につながるような取組とする。

(5) 研究推進委員会との連携

- ・集会発表による表現力・思考力の育成と自尊感情・自己有用感の高揚。
- ・話型を取り入れた話し合い活動による話し合い活動の充実。

(6) 形成テスト、単元末テスト、学力診断テスト等の活用

- ・児童個々の学力の定着度と伸長を把握・分析し、学力向上に向けた取組の充実を図る。
→チャレンジタイム、学習タイム

(7) 自主勉強（アタックノート）の推進

- ・進んで学ぶ姿勢が身に付くように、自学自習の力を身に付けさせる。
(日常的な自主選択学習《アタックノート》の適切な評価による自主的意欲と態度の向上)

(8) 漢字前倒し学習の取組

各学年で習う新出漢字について、児童の実態を踏まえた上で、できるだけ早いうちに一年間分を終える。

既習漢字の復習に時間をかけることにより、漢字の定着を図る。

(9) 計算力の向上

100ます計算等の計算に取り組み、計算力の向上を図るとともに、集中力をつけていく。

(10) 研修会の実施

- ・学力診断テスト等の分析及び今後の指導の充実に向けた研修会を実施する。
- ・学力に課題のある児童の指導方法の検討・交流をする。

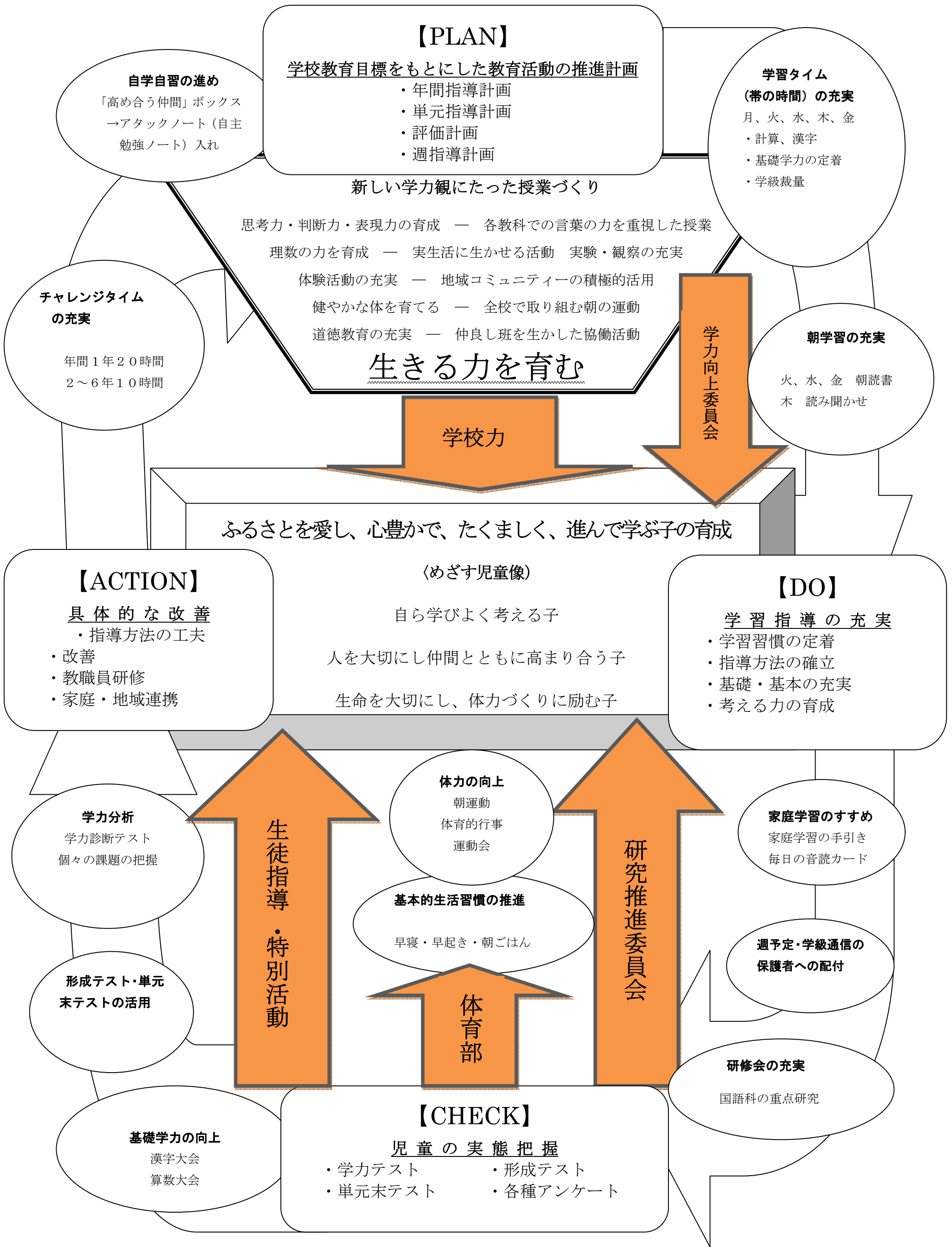
(11) 学力向上委員会の実施

- ・月1回定期的に学力向上委員会を開催し、学力充実に向けた取組の進捗状況を把握

(12) 家庭学習と家庭との連携

- ・家庭学習の手引きをもとに、学年だより、学年PTA等を活用して、家庭学習の重要性を訴え続ける。
- ・「がんばりカード」を活用し、家庭での学習・生活状況を把握するとともに、保護者との連携を図る。
- ・個別の学習課題を明確にし、家庭との連携を密にする。具体的には、日常の学習状況や学習態度等を適宜知らせ、家庭学習が定着するよう家庭の協力を得る。
- ・計画的な長期休暇を対象にした家庭学習課題の統一と学力テストによる分析。

亀岡市立西別院小学校 学力向上システム



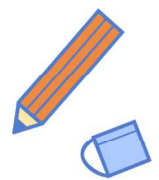

家庭学習の手引き

亀岡市立西別院小学校

子どもたちが確かな学力を身につけていくためには、家庭学習の習慣化がとても大切です。学校で学んだ新しい漢字や計算など、ていねいに繰り返し行うことにより確かな力にしていくこと、自分で課題を決めて取り組むことにより自ら学習していく力を身につけていくことが大切です。

この手引きは、それぞれの学年で、どれぐらいの時間学習したらよいのか、どういった内容が大切なのかを、見通しを持ってお子さんにアドバイスをしていただくための資料です。充実した家庭学習に向けて、ご活用ください。

1 家庭学習の時間とポイント (学習頑張りカードの目安)

学年	学習時間のめやす			
	15分	10分	5分	
低学年 30分以上	かんじ れんしゅう しゅくだいなど	さんすう もんだい	おん どく どくしよ アタックノートなど	
中学年 45分以上	漢字練習 宿題など	算数問題 宿題など	音読 読書 アタックノート	
高学年 60分以上	漢字練習 宿題など	算数問題 宿題など	音読 アタックノート (自由課題学習)	読書等

学習するときのポイント！

- ・決まった時刻 (何時から何時まで) にする。
- ・決まった場所 (落ち着いて学習できる場所) である。
- ・テレビを消して集中して取り組む。



自主学習(自由課題学習)の参考例

漢字練習、言葉の意味調べ、書き写し、ローマ字、計算練習、文章題づくり、人物・出来事・事柄の調べ学習、テストで間違えた問題にもう一度挑戦、鍵盤ハーモニカ・リコーダーの練習 など

2 生活の中で見えない学力をつけよう

- 読書をしよう。
- わからないことは必ず辞書や事典・図鑑類を身近において調べよう。
- 日本地図・世界地図・地球儀を意識的に見るようにしよう。
- ニュース番組をおうちの人と一緒に見て話し合おう。
- 百人一首など詩歌の暗唱に挑戦しよう。
- 将棋や囲碁など頭を使うゲームを楽しんでみよう。
- 自然や生き物とふれあい、観察をしてみよう。
- 家の仕事を進んでしよう。



3 各学年で身に付けたい力

< 習慣づけが大事な低学年 >

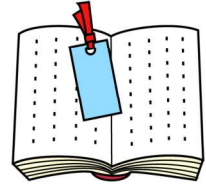
1 年生

- 鉛筆を正しく持って字が書ける。
- ひらがな・カタカナが読めて書ける。
- 助詞(て・に・を・は)を適切に使い分けて文章が書ける。
- たし算・ひき算ができる。
- 配当漢字のすべてが読め、すべての漢字が書ける。



2 年生

- 配当漢字のすべてが読め、8割以上の漢字が書ける。
- 順序よく話をしたり書いたりできる。
- 九九がすらすら言える。
- たし算・ひき算の筆算ができる。
- 決められた長さの直線を正しく引ける。
- かさの単位が分かり、測ることができる。



< ていねいにやりきることが大事な中学年 >

3 年生

- 配当漢字のすべてが読め、8割以上の漢字が書ける。
- 国語辞典の使い方が分かる。
- はかりを使って重さが読める。
- 簡単なことわざを知っている。
- 主語と述語の意味が分かる。
- ローマ字を適切に読んだり書いたりすることができる。
- あまりのあるわり算ができる。
- 日常生活に必要な時刻や時間、また秒と分の関係が分かる。



4 年生

- 配当漢字のすべてが読め、8割以上の漢字が書ける。
- 文と文のつながりを考えながら、指示語や接続語を使うことができる。
- 国語辞典・漢和(漢字)辞典を正しく使える。
- 地図を使って地名が調べられる。
- 小数のかけ算・わり算ができる。
- 分母が同じ分数のたし算・ひき算ができる。
- 47都道府県の位置が分かり、都道府県名を正しく書ける。



< 計画的に自主学習を進めることが大事な高学年 >

5 年生

- 配当漢字のすべてが読め、8割以上の漢字が書ける。
- 習った熟語の8割以上が書ける。
- 割合・百分率を用いた問題が解ける。
- パソコンでローマ字入力ができる。
- 理科の実験道具の正しい扱い方が分かる。
- 分数及び小数のたし算・ひき算・かけ算・わり算ができる。
- 世界の主な国々や海洋・大陸の位置や名称を正しく覚えることができる。



6 年生

- 小学校で習得すべき漢字のすべてが読め、8割以上の漢字が書ける。
- 小学校で習う熟語の8割以上がわかる。
- 歴史上の事件や人物についてだいたい説明できる。
- 重要な年号を30程度覚えることができる。
- パソコンで速くローマ字入力ができる。
- 場面に即して適切に演算を決定し、立式の根拠を説明することができる。

